



よ坊さんだより

▼67▲

先日、「初めて「歯の神様」を訪れました。しかし名匠と呼ばれる歯科医師の元へではありません。実は京都市南区、東寺の講堂裏手の堂に安置されている夜叉神さんです。巨大な建造物が並ぶ東寺の中で、その小さな夜叉神堂は本当にひっそりしていて目立たないので見落としてしまうかもしれません。その中に弘法大師

の作とされる「夜叉神像(雄夜叉・雌夜叉)」が祭られています。

昔、修行僧たちが病で苦しんだりした折に、この夜叉神さんをお願いしていたようです。特に歯痛の時、その苦痛で気が散って修行にも支障をきたしたところ

東寺の歯痛の神様

ろ、夜叉神さんをお願いして治ったことが伝えられました。そしていつの頃からか歯痛を治してくださる神様として信仰されるようになったのです。

かつて歯の痛み・悩みをかつて歯の痛み・悩みを癒やす目的で祈願などする「歯の神様」信仰が多く始まったのは、江戸時代中期から後期頃と言われています。当時、殿様・武将・豪商など、権力者たちのお抱えの「口中医」という療術者がいました。一般庶民には無縁の存在でした。そ

のような世相にあって、庶民は歯痛などの悩みをどのように対処したのでしょうか。苦しい時の「神頼み」「まじない」などが唯一の手段であり、これに頼らざるを得なかったのです。

さて現在、何か口の中で気になることがあれば、実際、神様までにはなれませんが早めの解決(予防、治療)を歯科医師と共に行っていきましょう。

(京都府歯科医師会広報 室員 小島淳一)

＊「よ坊さん」は日本歯科医師会のイメージキャラクターです。